

「江別市立中学校における部活動の地域展開に関する提言(素案)」修正箇所一覧

前回、2月19日の第5回委員会でいただいたご意見や、その後に事務局へお寄せいただいたご意見を受け、次のとおり素案から修正を行いました。

1. 第5回委員会（岡山副委員長）

部活動で指導に携わってきた者として、1番大切にしてきたものがあります。それは生徒たちの心と体の成長です。一見、勝利至上主義に見えるかもしれませんが、生徒たちを育てることを1番大事にしてきました。勝利至上の偏りが出ると、野球に関しては、早い段階で肩や肘を負傷してしまい、優秀な選手が日の目を見ずに終わってしまうこともありました。そのような反省から私たち指導者は、生徒の状況を考えながら、その子に合った負荷や運動量をかなり考えており、それと同時に、家庭環境も様々であり、子どもの置かれた精神状態なども異なります。いろいろなことを加味して、生活指導という観点で、部活動を経営してきたという実態がございます。これから地域展開していく中で、そういった部分が置いていかれてしまうのではないかとこの点を恐れております。部活動の在り方検討委員会という大きな括りですので、このような意見を述べさせていただきました。基本的には大きな枠組みなど、決めて動いていかなければならないと思いますが、やはり教育の場であるということは、忘れてはならないと思いましたので、本提言の中で触れていただければ幸いです。こうした考え方が残ってほしいなと思います。

P2 ③ 部活動指導員の人材確保に努めること

修正前	修正後
部活動指導員への任用は、指導ライセンス保有者や指導経験者を優先すべきではあるが、専門的指導が可能な人材だけでなく、活動の見守りなど、サポート役となる人材の確保についてもあわせて検討し、地域の人々がそれぞれの力量に応じた関わり方が可能となるよう配慮する。なお、いずれにおいても任用時の研修受講は必須とすべきである。	部活動指導員への任用は、指導ライセンス保有者や指導経験者を優先すべきではあるが、専門的指導が可能な人材だけでなく、活動の見守りなど、サポート役となる人材の確保についてもあわせて検討し、地域の人々がそれぞれの力量に応じた関わり方が可能となるよう配慮する。なお、いずれにおいても任用時の研修受講を必須とし、 <u>子ども達の心と体の成長を大切に</u> する学校部活動の意義を伝えるよう留意すべきである。

2. 第5回委員会（永谷委員長、佐藤委員）

3ページの市内大学との連携に関する文章の中で、「スポーツを専門とする学部・学科を有する大学」という記載がありますが、かなり限定的な記載ではないかと感じますが、問題はないでしょうか。

「スポーツを専門とする学部・学科を有する大学」という部分について、文化に関する記載はないのでしょうか。音楽を専門とする学部・学科を有する大学はあると思います。どうしてもスポーツのウエイトが重たくなるような感じがしますが、文化に関する記載も入れていただきたいと思います。

文化に関する記載も入れた方が良く考えますので、スポーツを専門とする学部・学科を有する大学という記載ではなく、スポーツや文化における専門的な知見や能力を持つ大学の協力をとった表現にしてはいかがでしょうか。もう少し幅広い表現とした方が良く考えます。

P3 ③ 部活動指導員の人材確保に努めること

修正前	修正後
<p>部活動指導員として学生の活用を進めるにあたっては、スポーツを専門とする学部・学科を有する大学のほか、市内各大学の知見を十分に活用することが望ましい。また、在学中に部活動の指導に関わることは、将来教員を目指す学生にとって有意義であると考えられる。</p>	<p>部活動指導員として学生の活用を進めるにあたっては、<u>スポーツや文化芸術活動に関する市内各大学の専門的な知見を</u>十分に活用することが望ましい。また、在学中に部活動の指導に関わることは、将来教員を目指す学生にとって有意義であると考えられる。</p>

3. 後日事務局へ提出（古川委員）

今後、地域展開を実施するにあたっては、状況の変化に素早く対応することが重要と考えます。また、これらの取り組みに理解をして頂けるには市民への情報発信も大切な要素と思います。

P5 ⑩ 今後は、当提言に基づき、種目毎に関係者(教職員、地域、競技団体等)間で協議を行い、準備が整った種目から順次地域展開等を進めること。

修正前	修正後
<p>部活動は、種目毎の生徒数、教職員数、必要な設備、地域の指導可能な人材やクラブの有無等、その種目を取り巻く環境が異なっているため、一律に推し進めることは現実的ではない。今後地域展開に向け具体的な取組を進めるにあたっては、種目毎に関係者間で協議し、準備が整った種目から順次地域展開を進めて行くべきである。また、その際は各種目の進捗状況を全体で共有するための組織(協議会・連絡会議等)の設置が必要と考える。そして、今後においても、「江別市子どもが主役のまち宣言」の趣旨を踏まえ、児童生徒の意見を把握できる手法を検討すべきである。</p>	<p>部活動は、種目毎の生徒数、教職員数、必要な設備、地域の指導可能な人材やクラブの有無等、その種目を取り巻く環境が異なっているため、一律に推し進めることは現実的ではない。今後地域展開に向け具体的な取組を進めるにあたっては、種目毎に関係者間で協議し、準備が整った種目から順次地域展開を進めて行くべきである。また、その際は各種目の進捗状況を全体で共有するための組織(協議会・連絡会議等)の設置が必要と考える。そして、今後においても、<u>市民への情報発信に努めるとともに</u>、「江別市子どもが主役のまち宣言」の趣旨を踏まえ、児童生徒の意見を把握できる手法を検討すべきである。</p>